

こんにちは♪ いよいよ夏休みですね♪ さて、昨日、芥川賞と直木賞の受賞作の発表がありました。芥川賞は、高瀬隼子さんの『おいしいごはんが食べられますように』が受賞しました！ 改めて夏休み明けに紹介します。直木賞は、窪美澄さんの『夜に星を放つ』が受賞しました！ 正直に書きますが、ぼくはこの作品が選ばれることはないと思っていました。窪美澄さんは好きなのですが、『やめるときも、すこやかなるときも』や『じっと手を見る』などの傑作に比べると、特に優れていると思えなかったからです。まさしく、「まったく直木賞ってやつは！」今回は、全体的に小粒で、「これぞ！」という本がなかった気がします。というわけで、今号では、惜しくも直木賞受賞はなりませんでしたがオススメの作品を紹介します！

選ばれなかったけどオススメの直木賞ノミネート作！

『絞め殺しの樹』 河崎秋子

怖ろしげなタイトルは、菩提樹のこと。インドの本当の菩提樹は蔓性の植物で、ほかの木に絡みつき、栄養を奪いながら締めつけて、元の木を殺してしまうのだそうです。「絞め殺しの樹」に絡みつかれ殺されてしまったかのような女性を描きます。「今までとても大変でした」「でも頑張っ^{ほたいじゆ}て生きてきたんです」「強くならなければ、優しくならなければならぬと、そう思って、生きてきたのです」。舞台は、著者が実際に生まれた北海道東端の別海町に隣接する根室。父を知らず幼くして母と祖母を亡くし、新潟の大きな農家で育てられたミサエは、十歳になると祖母が世話になった根室の酪農家の吉岡家に引き取られる。そこで待っていたのは、地獄のような生活だった。ミサエを蔑む一家にあらゆる労働が課せられた。懸命に働くが報われず、憎まれるばかりで女郎屋に売り飛ばされそうにまでなるが、出入りの薬屋に救われ、札幌の薬問屋で働くことになり看護婦の資格まで得る。ところが、救われた薬屋の頼みで、保健婦として再び根室に戻ることに。吉岡家とも再会する。結婚も救いにならない。そして、さらなる悲劇がミサエに訪れるのだった…。なんて容赦のない！ 次々と襲いかかる困難！ こんなにも救いのない物語があるのだろうかと思われるほどですが、吉岡家に奪われたミサエの実子・雄介が主人公となる第二章で救われます。

『スタッフロール』 ふかみどりの わき 深 緑野分

「当時、映画業界では、現代以上に女性の居場所がありませんでした。その中でも特殊造形は男の領域とされていたのです」。映画に、特に特撮に魅せられた二人の女性の物語。第二次世界大戦直後に生まれたマチルダは、まだ2歳のときに怪物を見た。それは父親の友人でハリウッドに勤めるロニーのいたずらで、職場から持ってきた人形マベツトの影絵だったのだが、生涯にわたってマチルダはその怪物を再現しようとするのだった。ロニーのおかげですっかり映画に夢中になるマチルダ。ロニーの死に夢を叶えることを決意し、親には内緒でマンハッタンの映画の特殊造形師・ヴェンゴス老人に弟子入りしてしまう。彼女がロサンゼルスへと出て、女性が冷遇される映画界でなんとか認められるようになるころに、特殊造形は黄金時代を迎える。ところが、CGの世界も急成長し、電気スタンドが愛らしく動き出すあのフィルムを見るやマチルダは…。そして、現代のロンドン。CGアーティストのヴィヴィアンは、マチルダが最後にかかわった作品であり、大好きで十歳にもならないころから繰り返し観ている『レジェンド・オブ・ストレンジャー』のリメイクを手がけることになった。特殊造形の最良の技術で撮影されたその作品が、3DCGで蘇るのだ。ヴィヴィアンは主役のクリーチャー・X（それはマチルダの「怪物」だ！）の創造に携わることに。理想のXを求めて、ヴィヴィアンは迷走する…。

『爆弾』 こ 呉 勝浩

「この作家は自身の最高傑作をどこまで更新してゆくのだろうか」。酔った勢いで酒屋の自動販売機を蹴りつけ、止めに来た店員を殴って逮捕されたスズキタゴサク（このふざけた名前！）四十九歳。とぼけた外見にとぼけた返答。スズキは、取り調べの最中に「刑事さんの役に立つ」から被害者を説得してくれと言い出した。靈感があるから、何か事件が起きるのを事前に予告して伝えるのだという。聞きもしないのにスズキは十時に秋葉原で何かあると告げる。するとはたして、十時に秋葉原で爆発事件が起きる。さらにスズキは「ここから三度、次は一時間後に爆発します」と予告するのだった。こいつは何者だ？ 一転してスズキは連続爆破テロ事件の容疑者かつ無差別に都民の命を狙う爆弾魔と目されるが、あいかわらずの態度でしゃべりすぎなほどにペラペラと身の上話や過去を語り、尋問者にゲームやクイズを持ちかけるのだった…。嫌悪の対象のスズキがここまで憎たらしくなるのは、自分の中にもまたスズキがいるのに気づかされるから。「この街に隕石が落ちてしまえばいいのに」。

『わたしの幸せな結婚』～六 ^{あぎとき} 顎木あくみ

累計 500 万部の人気シリーズがアニメ化&実写映画化W決定！今田美桜と目黒蓮（Snow Man）が演じます！名家に生まれながらも実母が早くに亡くなり、継母と義母妹に虐げられて育った美世は、冷酷無慈悲と噂の若き軍人、清霞のもとへと嫁入りを命じられる。清霞は婚約者候補たちがこぞって三日と持たずに逃げ出したという悪評の主だ。ところが、美世の前に現れたのは、色素の薄い美貌の男だった。やはり初対面では辛く当たられてしまったけれど、くじけず美世は清霞と心を通わせようとする…。「これは、少女があいさされて幸せになるまでの物語」。最新刊では、美世は投獄された清霞を自力で救おうとします！

『ロボット・イン・ザ・ガーデン』 デボラ・インストール

ニノ主演で映画化！古ぼけたロボットとダメ男、ポンコツ二人組の物語です。舞台はアンドロイドが共存しているちょっと未来のイギリス。獣医になろうとして12年もねばったけれどモノにならず、無職で両親の遺した遺産と家で暮らしている34歳のベン。弁護士として活躍し、家事もこなしている妻のエイミーは、いつも「あなたのせいでほんとストレスがたまる」という表情を浮かべています。そんな二人の家の庭に、時代遅れのみすぼらしいロボットのタングがやってきます。ベンはすっかり彼にかまけてしまいます。彼の胸のなかのシリンダーは壊れていて、作った会社ならそれを直せるんじゃないかとカリフォルニアにまで行こうとしているベンに愛想を尽かして、ついにエイミーは離婚を切り出すのでした。残されたベンは、タングとともに行き当たりばったりでカリフォルニアへと向かいます…。「僕は何も成し遂げたことがない。そろそろ何かを成す時だ」。

『アキラとあきら』 池井戸 潤

竹内涼真&横浜流星W主演で映画化！「お前は、銀行員なんだから、父さんみたいにならないように、取引先のこと、救ってやってくれ」。瑛と彬^{あきら}。二人に共通しているのは名前の読み方だけではなく、社長の息子として生まれたことだった。ただし、同じ社長の息子は息子でも、その境遇はまったく異なっていたけれども。かたや家計は苦しいが、幸福な家族の営む小さな町工場。かたや、巨大企業グループの根幹を成す大海運会社。社長の息子として生まれながらも、それぞれの理由から銀行員としての道をわざわざ選んだ二人のアキラの物語。二人のアキラは同じ銀行へと入行し、就職後の研修で争い、やがて誰もが無理だと思った試練をともに乗り越えようとする…。熱い！

『怪談小説という名の小説怪談』 澤村伊智

『来る』というタイトルで映画化もされた『ぼぎわんが、来る』を読んでしまうとあまりの面白さ（怖さ！）に必ずほかのすべての作品も読破してしまわずにはいられない、「面白いホラー」を書ける稀有な作家、澤村伊智さん待望の新刊！「なぜ人は怖い話を書いたり、語ったりするのでしょうか。…私はそこに新しく意味を付け加えてみたいんです」。深夜の高速道路の車中での怪談、不幸な事故により住んでいた人が誰もいなくなってしまう幽霊屋敷、いじめられていた青年の復讐と土俗的な民間信仰を融合させた自主制作のホラー映画…。ありきたりなテーマの「怖い話」がヒネられて、真の恐怖へと変貌します！

『爆発物処理班の遭遇したスピン』 佐藤 究^{きわむ}

直木賞&山本周五郎賞W受賞を果たした『テスカトリボカ』のくらくらするほどの濃厚さで読書界をノックアウトした著者のエッセンスを凝縮したかのような短篇集！これはヘヴィです！しかしバツグンに面白いんだ！あの江國香織さんなどは、「驚愕の読書体験で、読後しばらく、どうやって自分の日常に戻れば良いのかわからなかった」そう。後戻り不可能な読書体験！たとえば、ダチョウとダイオウサソリの合成生物。新しいクリーチャーの着想を得るために、脊椎動物に無脊椎動物の身体的特徴を融合させた新しい危険生物を実際に誕生させるCGクリエイター。原付一台盗まれただけなどのつまらない理由で小指を詰めさせられ、ワニガメの口中に指を突っ込む儀式を強要されるヤクザ。連続殺人犯の制作したアート作品——価値があつてはならないもの——のコレクター…。収録されたものすごく不穏な感じがする短篇たちは、どれも忘れられない強烈な印象を残します！表題作は、鹿児島市の繁華街のホテルの酸素カプセルと沖縄の米軍基地にも仕掛けられた、量子力学の知識がなければ手を出すことのできない特殊な爆弾と対峙させられた爆発物処理班の物語。読後、世界の見え方が変わります。

◎日川高HPで、図書館通信が見られるようになりました♪

◎夏休みの図書館は、8/5（金）から8/15（月）までのあいだお休みします。

————— 紫風祭であまりにステキで<せーや賞>を受賞した3-1のユニコーン（アリコーン）の展示を、図書館にお迎えしました！ ゆめかわ日川♪ では、図書館で。